

再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担 当 課：道路局 国道・技術課

担当課長名： 西川 昌宏

事業名	旭川・紋別自動車道(一般国道450号) 遠軽上湧別道路			事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自: 北海道紋別郡遠軽町豊里 至: 北海道紋別郡湧別町南兵村一区				延長	13.8km	
事業概要							
旭川・紋別自動車道は、比布町を起点とし、遠軽町を経由して紋別市に至る高規格道路である。 遠軽上湧別道路は、高速ネットワークの拡充による道央圏・道北圏とオホーツク圏の連絡機能強化を図り、地域間交流の活性化及び物流効率化等の支援を目的とした延長13.8kmの事業である。							
R3年度事業化		—		R5年度用地補償着手		R5年度工事着手	
全体事業費		約375億円		事業進捗率 (令和7年3月末時点)		約14% 供用済延長 0.0km	
計画交通量		2,400～9,100台/日					
費用対効果分析	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体) 281/10,111億円		総便益 (残事業)/(事業全体) 502/11,417億円		基準年
	1.1(1.5)		事業費: 250/9,000億円		走行時間短縮便益: 446/9,695億円		令和7年
	1.4(2.2) [2%]	4.6%(6.4%)	維持管理費: 30/858億円		走行経費減少便益: 44/1,415億円		
	1.5(2.7) [1%]		更新費: -/253億円		交通事故減少便益: 13/307億円		
	(残事業)	(残事業)	感度分析	(事業全体)		(残事業)	
1.8(1.8)		交通量		B/C=0.98～1.3(±10%)	交通量	B/C=1.6～2.0(±10%)	
2.6(2.6) [2%]	8.0%(8.0%)	事業費		B/C=1.1～1.1(±10%)	事業費	B/C=1.6～2.0(±10%)	
(参考)	3.1(3.1) [1%]		事業期間	B/C=1.1～1.1(±20%)	事業期間	B/C=1.7～1.8(±20%)	
事業の効果等							
事業の必要性及び効果							
① 水産品の流通利便性向上 ・オホーツク海で漁獲された活ほたてやほたて玉冷の市場や物流拠点への定時性及び速達性の高い輸送ルートが確保され、水産品の流通利便性向上が期待される。							
② 農産品物流ルートの安全性・速達性向上 ・遠軽市街地を回避する安全性の高い物流ルートが確保され、速達性向上が期待される。							
③ 周遊観光の活性化 ・遠紋地域と網走・知床を連絡する観光ルートとして主要観光地へのアクセス性が向上し、オホーツク圏の広域観光の活性化が期待される。							
④ 救急搬送の速達性・安定性向上 ・救急搬送時の速達性向上や走行安定性向上による患者への負担軽減が期待される。							
⑤ 異常気象時の確実性・信頼性向上 ・耐災害性が強化され、基幹道路の確実性・信頼性の向上が期待される。							

地域から頂いた主な意見等：

紋別市、旭川市など2市9町1村の首長等で構成される「高規格道路旭川・紋別自動車道早期建設促進期成会」等から、早期整備の要望を受けている。

知事の意見:

「旭川・紋別自動車道(一般国道450号)遠軽上湧別道路」事業を「継続」とした「対応方針(原案)」案について、異議はありません。

当該事業は、農水産物の輸送をはじめとする物流の効率化、オホーツク地域の周遊観光等の振興、安全で確実な交通の確保、救急搬送時間の短縮などに寄与することから、早期供用を図るようお願いいたします。

なお、事業の実施に当たっては、周辺環境への影響を最小限にとどめるとともに、徹底したコスト縮減を図り、効率的・効果的な執行に努めるようお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・令和 3年 4月 シーニックバイウェイ「秀逸な道」「美幌峠と屈斜路湖を風のように吹き抜ける道」認定
- ・令和 5年 6月 「北海道白滝遺跡群出土品」が国宝指定
- ・令和 6年 4月 北海道横断自動車道 女満別空港網走道路(女満別空港～網走呼人) 新規事業化
- ・令和 6年12月 シーニックバイウェイ「秀逸な道」「並木のウエルカムゲートを抜けて絶景へと至る道」認定
- ・令和 7年 3月 国道238号紋別防雪全線開通
- ・令和 7年 5月 道の駅「遠軽 森のオホーツク」が防災道の駅選定

事業の進捗状況、残事業の内容等

令和3年度に事業化して、用地進捗率約6%、事業進捗率約14%となっている。

(令和7年3月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

引き続きコスト縮減に取り組んでいく。

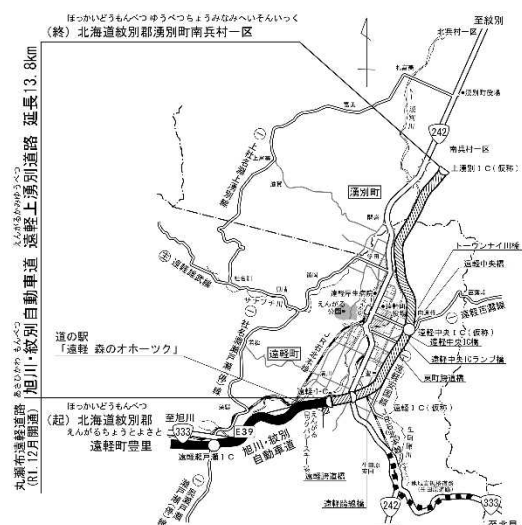
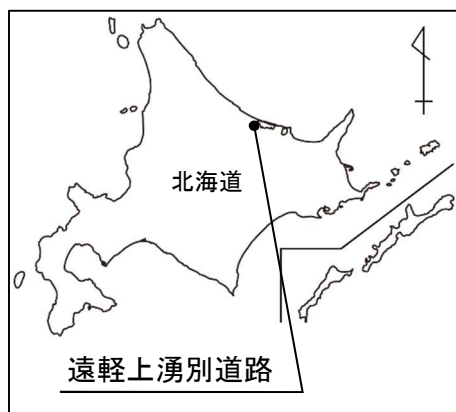
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。([]内は社会的割引率の値)

※B/Cの値は、比布JCT～紋別を対象とした場合、()書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。